

作る、演じる、ハマる 上海モールの体験消費

買い物だけでは満足しない時代へ。上海のショッピングモールでは、作る・演じる・楽しむ「体験型消費」が若者を中心に広がっている。注目の2大ジャンルを紹介。



拼豆

小さなビーズを並べ、アイロンで熱を加えて作品を作るDIY遊び。キャラクターやアクセサリ作りが人気で、近年は大人も楽しむ創作趣味として広がっている。

遊び方



① 図案を選ぶ

まずは作りたい作品の図案を決める。店が用意した豊富なサンプルから選ぶこともできるほか、小红书やネットで見つけたお気に入りの図案を印刷して持ち込むことも可能。キャラクターや食べ物、動物など、自分の好みに合わせた作品作りが楽しめる。



② ビーズを並べて制作

図案をもとに、必要な色のビーズや専用プレート、ピンセットなどの道具を受け取り、制作スタート。小さなビーズを一粒ずつ並べる細かな作業だが、色合わせを考えながら集中できるため、友人と会話をしながら楽しみながら没頭する人も多い。



③ アイロンで固めて完成

完成した作品はスタッフがアイロンで熱を加え、ビーズ同士を接着。多くの店舗では、制限時間内であれば作れる作品数に制限がなく、簡単なキーホルダーを複数作ることも可能。またアイロン加工方法も選べる。



ピンセットを用い、図案を見ながら進める細かな作業のため、目安として6〜7歳頃から楽しめるが、大人も夢中になる人が続出。友人と会話しながら作品を作ったり、完成品をSNSで共有したりと、拼豆は単なる工作から「一緒に過ごす時間を楽しむ」「新しい体験消費へと進化している。

近年は、材料をそろえた体験型の拼豆店もショッピングモールなどに登場。店舗では数百種類のビーズから好きな色を選べ、図案や必要な道具もすべて用意されているため、初心者でも気軽に挑戦できる。スタッフが遊び方を教えてくれたり、一番難しい作業であるアイロンプレスをしてくれるので安心。料金は1時間28〜58元程度が相場で、制限時間内なら何作品でも制作できる店も多い。

推し活から生まれた新趣味

人気の背景には「推し活」必要がある。好きなキャラクターやアイドル、ゲーム作品のデザインを自分で作れるため、既製品にはない自分だけのグッズとして楽しむ人が増加。SNSアプリ「小红书」では完成作品の投稿も盛んで、キャラクターだけでなく、食べ物や人物、ロゴなど、アイデア次第で何でも表現できる自由さが支持されている。

小さなビーズを並べ、熱で固めて作品を作る「拼豆(アイロンビーズ)」。日本でも子どもの工作として親しまれてきたが、中国では近年、若者を中心とした創作趣味として急速に人気を集めている。中国で使われる拼豆は、日本で一般的なものより細かなサイズの商品も多く、より複雑な表現ができる点も特徴のひとつだ。

小さなビーズで広がる創作



劇本殺

参加者が物語の登場人物になり、台本を読みながら会話や証拠集めを進める体験型ゲーム。推理だけでなく、演技や衣装、物語への没入も楽しめる。

遊び方



① 作品と役柄を選ぶ

まずは参加人数や好みに合わせ、遊ぶ作品を決める。推理、歴史、恋愛、ホラーなどジャンルはさまざま。各自の役柄が決まると、DM(司会者)から世界観や基本ルールの説明を受け、それぞれ専用の台本を受け取る。一般的には5〜8人程度で遊ぶ。



② 台本を読み、役を演じる

自分の台本を読み、人物の過去やほかの登場人物との関係、秘密を把握する。その後、役になりきって自己紹介を行い、会話や質問を通じて物語を進行。途中で証拠を集めたり、新たな情報を確認したりしながら、事件の全体像を探っていく。



③ 話し合って真相を推理

集めた証拠や各人物の発言を照らし合わせ、参加者同士で議論。疑わしい人物を投票で選び、最後にDMが事件の真相や物語の結末を解説する。実景型の店舗では、衣装への着替えやNPCの演技、照明・音響を使った演出が加わることもある。



どのショッピングモールにも1〜2店舗「劇本殺」店があるが、台本の読解と参加者同士の会話を中心のため、中国語に不慣れな人にとっては難易度が高い。挑戦するならば、初心者向け作品を選び、中国語が得意な友人と参加するのが安心だ。

料金は店や作品によって異なるが、一般的な卓上型なら1人100〜300元程度が目安。豪華な実景や演者を使う没入型では、さらに高額になる場合もある。また長期戦になる場合は、食事をデリバリーしたり、麻雀を挟みながら楽しんだりすることも。

店舗ではDMが進行を担い、作品によってはNPCが登場して物語を盛り上げる。若い脚本家や演者、店舗スタッフが新しい作品や演出を生み出し、同世代の客が友人との集まりや団体活動で楽しむ、若者発のビジネスとしても成長してきた。

若者をつなぐ新感覚型エンタメ

中国では2010年代後半から専門店が増え、若者の新たな社交娯楽として定着した。推理だけでなく、恋愛や歴史、ファンタジー、感動物などジャンルも幅広い。全員に異なる役柄と物語が用意され、自分が「脇役」になりにくいことも人気の理由だ。

参加者が台本の登場人物になり、会話や証拠を手掛かりに事件の真相を探る「劇本殺」。一般的には5〜8人ほどで遊び、1回の所要時間は4〜6時間程度。作品によっては衣装に着替え、作り込まれた部屋を歩いて証拠を探すなど、ドラマの中に入り込んだような体験が楽しめる。

物語の主役になれる没入型